



コンベンション色々 (3-1)

Rexford キュービッド

2019.5.17

コンベンション紹介の第3回として Ken Rexford によるキュービッド方式を取り上げます。今回を含めて数回にわたるシリーズになります。なお使用しているシステムは今事実上の標準となっている 2/1 GF システムです。詳しくは “Cuebidding at Bridge, A Modern Approach” by Ken Rexford, Master Point Press, 2006 を参照してください

普通キュービッドというと、スラムをビッドするためにサイドスーツのコントロールの有無をチェックするためのものですが、言い換えればサイドスーツにルーザーがあるかどうかをチェックするためのものでした。(キーカードアスキングもこのチェックのための1つといってもよいともいえます)しかし、Rexford のキュービッドは、ルーザーのチェックだけでなく、サイドスーツのウィナーを数えるためにも使われるので、よりスラムビッドが正確に判断出来るようになるという画期的な方法です。キュービッドの天動説から地動説への転換=“コペルニクス的”発想の転換ととってよいでしょう。以下順を追って説明しましょう:

I ジャンプしていないキュービッド:

キュービッドは普通次のようなシーケンスの後に出てきます。典型的な 2/1 GF システムのシーケンスで、メジャーが 2 レベルでアグリーしたときです。(“難波田余談 2009 ~ 2017” の P.46 ~ P.47 参照)

1 S - 2 C
2 D - 2 S
? - ?

となってきた、Rexford 方式のキュービッドが始まり続いて行くのですが、できる一番低いものからビッドします。その際のシーケンスでの原則をまず説明しておきましょう:

- 1) 自分のサイドスーツのキュービッドをすると、そこに AKQ のうちの 2 枚がある
- 2) パートナー側のサイドスーツのキュービッドをすると、AKQ のうちの 1 枚がある
- 3) 2 NT キュービッドは自分には良いトランプを否定する (= AKQ のうちの 1 枚以下である)
- 4) 2 NT をバイパスしたキュービッドは自分には良いトランプも保証する (AKQ のうちの 2 枚はある)
- 5) トランプのキュービッドはトランプの質を補完する = AKQ のうちの 2 枚がある
- 6) アンビッドスーツのキュービッドは A または K か、あるいはボイドかシングルトンを保証する
- 7) あるキュービッドをバイパスしたら、そのキュービッドが示す内容を否定する

- 8) 3 NT をビッドしたら (ノンジャンプで) シリアス 3 NT である
 - 9) 3 NT をバイパスしたらシリアス 3 NT が示す内容を否定する (余談第 116 回参照)
 - 10) ラストトレインキュービッドを使用する (余談第 115 回参照)
- としています。途中でスラムはないとどちらかが判断できたらすぐにゲームビッドでサインオフします。だからこのシーケンスで、オープナーが例えば

| | | | |
|-----------|----------|----------|-----------|
| a) | b) | c) | d) |
| ♠ AQJ86 | ♠ AQJ865 | ♠ K10865 | ♠ AQJ865 |
| ♥ QJ | ♥ K3 | ♥ AQ | ♥ AQ |
| ♦ AJ108 | ♦ AQJ10 | ♦ AJ108 | ♦ AJ108 |
| ♣ J10 | ♣ J | ♣ K10 | ♣ Q10 |
| e) | f) | g) | h) |
| ♠ KQ10987 | ♠ AQJ865 | ♠ QJ865 | ♠ AQ10865 |
| ♥ 7 | ♥ AQ | ♥ AK | ♥ A |
| ♦ AQ109 | ♦ AJ108 | ♦ AKJ10 | ♦ AKJ8 |
| ♣ 109 | ♣ J10 | ♣ Q10 | ♣ Q10 |

だとしたら、次のようにビッドします:

- a) 3 S : トランプは 2 枚のトップアナーがあるが、自分のサイドスーツの D にトップアナーは 1 枚しかなく、パートナーズートの C にもトップアナーがないし、H にもコントロールがない。ミニマムと言えるハンドだが決して 4 S とは言わない。
- b) 3 D : C にはトップアナーのサポートがないが、D にはトップアナーが 2 枚ある。トランプにはトップアナー 2 枚ある。
- c) 2 NT : トランプにトップアナー 2 枚ない
- d) 3 C : パートナーズートの C に Q がある。
- e) 3 D : ライトオープンであるが 4 S とは言わない方がよい。あくまで 3 D とした方がよい。
- f) 3 H : 2 NT、3 C、3 D といえるハンドでないが、HA がある
- g) 2 NT : 非常に強いハンドだが、トランプが内容が良くないので 2 NT からキュービッドを始める
- h) 3 C : これも非常に強いハンドだが、まず 3 C と CQ のキュービッドから始める

ここで注意しておきたいことは、いわゆる PFA (Principle of Fast Arrival) 原則 (GF がかかっている時すぐゲームビッドするのは弱い時) などという考えは捨てさらねばなりません。それはハンド全体の合計点でしか判断していないということです。このキュービッド方式を学べばビッドの段階であたかも両方のハンドを絵に見ているようにして判断することが可能になってきます。重ねて言いますが「余裕があるハンドだから 3 S、余裕がないハンドだから 4 S とする」などはナンセンスきわまりないことだと思います。

(続く)